

### 第二節 我國に於ける「トラホーム」の分布並に消長

#### 第一 明治初年より中葉頃

日本に於ける「トラホーム」統計は明治十四年に初まるものゝ如く、而も當時の統計は未だ以て國內に於ける分布消長を知るの資料とならず、實際本病蔓延の状況を知るに足る統計は明治四十年前後より初まるものゝ如し。集め得たる統計を摘録すれば左の如し。

年次	報告者名	場	所	検診人員	「トラホーム」患者数	%	「トラホーム」症% △對合併症%	備考
自明治二十四年	大盛	西	於岡山(眼病患者)	一〇、三五七	二、六四一	二五・五	二五・四	男ハ女ヨリモ多シ
自明治二十八年	中泉	徳	徳島縣市樂(眼病患者)	一四、四四三	九六〇	六・六五	五五・九	
自明治二十九年	長野	徳	長野縣埴科郡一町十三ヶ村ノ児童	一、五四五	二二三	一五・一		
明治二十六年	前田	徳	名古屋學校児童	一、六三九	五六六	三四・五		
明治三十一年	秋野	治	横須賀小學校	一、五五八	一〇一	六・五		
明治三十二年	生島	吉	新潟縣高田(眼病患者)	一、九七八	六五七	三三・二		
明治三十五年	家坂	清	新潟市小學校	一、六三四	四五二	二七・六		
明治三十七年	渡瀬	金	豊前小倉小學校	二、八〇二	三六九	三六・九		
同	生島	吉	豊前中津小學校(一)	八九〇	三九二	三九・二		
同	同	同	同(二)	二七五	三三二	三三・二		
明治三十八年	宮崎	厚	米澤小學校	二、三六九	三五二	一四・九		
自明治三十三年	山崎	秋	岐阜病院(眼病患者)	四、五八八	一、三五四	二九・五		男ハ女ヨリモ多シ
自明治三十八年	桑原	利	大分縣西眞玉村一四三戸	一、三〇一		女七五%		患者ナキハ僅カニ三三戸九%

%ノ平均 三一・〇五%

明治三十九年家坂清次郎は諸家の報告を集め自家の調査に併せ左の如く示せり。

調査人名	場	所	「トラホーム」%	調査人員	場	所	「トラホーム」%
奈良	福井		四八・〇二	森	新潟、巻		二〇・〇〇
星子	熊本、山鹿		四七・三〇	海	千葉、布川		一八・七〇
生島	新潟、高田		四一・七〇	藤	富山、氷見		一八・五二
家坂	新潟		四一・七〇	井	東京		一七・五三
日高	東京		二七・九〇	上(達七郎)	静岡、濱松		一六・〇〇
大西	岡山		二五・五〇	美	宮城、仙臺		一三・四八
千葉	千葉		二二・〇〇	渡			

明治四十年九尾(七郎)は明治三十年より四十年に至る東京醫科大學眼科教室外來患者五八、四七四人の新患者中「トラホーム」は二七・五三%なりと報告し。

同年高橋昌壽は明治三十六年より四十年迄の京都大學眼科教室外來患者二一、二二九人中三、六七五人即一六・九一%を發見せり。以上の統計に現はれたる處元より検査の範圍極めて狭く、此れを以て本病の多寡を探知し得ざるも、假りに一評を加ゆれば本病多きは名古屋、新潟、豊前、大分、福井、熊本、岡山にして比較的少なきは宮城、静岡、東京、富山、千葉、米澤、長野、横須賀の各地なり。更に之れを總括するときは平均三〇・八四%となり歐洲に於けるナボレオン時代に匹敵するものあり。

#### 第二 明治末葉以後

其後の状況は別表の如く明瞭なり。今之れを便宜上二十年前、十年前、最近三年間平均の三種として徴兵検査時検診成績、壯丁豫備検診、成績及其の他の検診成績に分ち觀察せんとす。

只惜むらくは徴兵検査時検診は脱漏者最も少なきも壯丁豫備検診に至つては相當の脱漏者あり又二十年前、十年前の検診成績は之れを缺く府縣多きと検診従事醫師の技能程度一様ならざる爲め動もすれば標準に多少の軒輊あるを免れざる等聊か統計上の價を損するの點なり。乍然大數の上より見て最も信を置き得る數字たるを失はず。

- 一、先づ徴兵検査時検診成績より見るときは明治四十二年には全國平均二三・一四%を示し就中徳島の五一・〇六%を最高位とし
- 四〇%以は千葉、福島、福岡

- 三〇%以上は長崎、群馬、奈良、宮城、青森、岡山、香川、佐賀、熊本、宮崎
- 二〇%以上は北海道、兵庫、新潟、茨城、栃木、愛知、岩手、山形、秋田、福井、愛媛、大分、鹿児島
- 一〇%以上は大阪、神奈川、静岡、山梨、岐阜、長野、石川、鳥取、埼玉、広島、山口、高知
- 一〇%以下東京、京都、滋賀、富山、島根、和歌山、沖繩なり。

超へて大正四年には平均一八・六六%に低下し、府縣別に於ては

青森の五〇%を以て最高位とし、群馬の四二・〇二%に次ぎ

三〇%以上は栃木、宮城、福岡、沖繩の四縣

二〇%以上は大阪、茨城、岩手、秋田、徳島、香川、大分、佐賀、熊本

一〇%以上は北海道、東京、神奈川、兵庫、長崎、新潟、埼玉、千葉、奈良、三重、愛知、静岡、山梨、福島、山形、福井、石川、鳥取、岡山、広島、山口、愛媛、宮崎、鹿児島、和歌山、高知にして概して高率の府縣數著しく減じ來れり。

更に最近三ヶ年平均に於ては從來常に

最高位を占めたる青森縣も遙かに低下し、而も尙最高位の二九・九二を保持し他の府縣中三〇%以上は最早や之れなく。

二〇%以上群馬、茨城、岩手、秋田、高知、福岡の六縣にして

一〇%以上愛知、山形、大分、奈良、香川、佐賀、大阪、長崎、徳島、宮城、栃木、兵庫、沖繩、山口、福島、和歌山、熊本、北海道、広島、鳥取、宮崎、埼玉、岐阜、岡山、山梨、鹿児島

一〇%以下東京、京都、神奈川、新潟、千葉、三重、静岡、滋賀、長野、福井、石川、富山、島根、愛媛

の狀況となり最も顯著目曠稱するに足る低落を示し、之れを今より二十年前の成績に比し來れば全く今昔の感ある好成绩を呈せり。

二、壯丁「トラホーム」豫備検診成績に於ても亦前者に劣らぬ好成绩を示し、二十年前に於ては平均二二・二%にして

青森の四四・八%を最高位宮城の四三・五%を次位とし、三重の三六%之れに次ぎ、茨城の三一・五%を第四位とし

二〇%以上は北海道、新潟、静岡、広島

一〇%以上は群馬、秋田、福井、徳島、愛媛の五縣

一〇%以下なるは京都、長野、沖繩なり。

次に十年前に於ては

青森の四三・七%を最高とし群馬の三九・四%之に次ぎ沖繩の三〇・三%を第三位とす、而して

大阪、千葉、栃木、奈良、宮城、徳島、鹿児島は二〇%以上を示し、北海道、新潟、三重、静岡、福島、福井、広島、和歌山、愛媛、熊本、宮崎は何れも一〇%以上

京都、神奈川、滋賀、長野、島根の一府四縣は一〇%以下に屬す。

又最近三年間平均の成績は全國一四・五%に下り

青森の四一・五%を最高とし

長崎、群馬、茨城、栃木、宮城、福島、福井は二〇%以上の優勢を示し

北海道、千葉、奈良、三重、愛知、岩手、山形、秋田、島根、岡山、広島、山口、和歌山、徳島、香川、愛媛、福岡、大分、佐賀、熊本、鹿児島、沖繩の二一縣は二〇%以上を算し

神奈川、新潟、埼玉、静岡、山梨、岐阜、長野、石川、富山、鳥取、高知、宮崎の十二縣は何れも一〇%以下

にして十年前よりは更に減少せるを見る。

三、其他の「トラホーム」検診成績より見るに、二十年前に在りては、僅かに四縣、十年前に在りては七縣の統計あるのみにて他を知るを得ずと雖も、同じく極めて良好なる成績を示し、二十年前に於て

青森の三七・九%、十年前に於て奈良の四九・二五%は其最高なり。

最近三年間平均に於ては青森に代つて

宮城の三九・四五%を最高位とし、青森の二八・九六%之に次ぎ、長崎の二四・五四%を第三位とす、而して

一〇%以上なるは北海道、東京、新潟、群馬、茨城、栃木、奈良、愛知、山梨、岩手、山形、秋田、福井、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、福岡、熊本、鹿児島、沖繩の二十四府縣にして

神奈川、兵庫、埼玉、千葉、静岡、滋賀、岐阜、長野、福島、富山、鳥取、和歌山、佐賀、宮崎の十四縣は一〇%以下に在りて

其平均は二二・〇五%となれり。

四、尙茲に接客營業者の検診成績より見たる各府縣の「トラホーム」狀況に就き一言せん。其全國的消長は

二十年 前  
十年 前  
最近三年平均 (十三十四)

八・九四% (八府縣)  
五・一三% (十八府縣)  
七・二七% (全府縣)

にして殆んど波動を見ず、而して其罹病率も一般住民等に比し著しく少なし其理に就ては斷じ難し(回答府縣の少なき爲めならん?)。次に既往三年間平均に依り各府縣の成績を比較するに別表の如く青森、長崎、沖繩、福岡、愛知、栃木は多き部に屬し岐阜、新潟、島根、宮崎、富山、兵庫、滋賀、石川は少なき方にして其他は中位にあり。

以上明治十四年より明治四十年に至る統計並前記四種の統計より見れば(接客營業者検診成績は一般検診成績に包含するを以てこゝに入せず)日本に於ける「トラホーム」は近年著しく減少したと云ふて支障なきも、然も尙現在國內の「トラホーム」は各種検診成績の總勘定が示す如く少なくなるとも平均九・一二%を下らざるものと思料せらる。(以下諸表参照)

業態別検診成績總勘定

業態	二十年「トラホーム」發見率		最近三年平均「トラホーム」發見率		二十年「トラホーム」發見率	最近三年平均「トラホーム」發見率
	患者	減少歩合	患者	減少歩合		
壯丁	二二・一四	一三・八三	一四・五〇	一四・七四	一四・七四	五・〇一
同豫備検査	二二・一〇	一四・五〇	七・二七	一七・〇九	一七・〇九	六・六五
接客營業者検査	八・九四	七・二七	一・〇八二	一〇・八二	一〇・八二	一一・〇五
小兒児童検査	二二・四三	一四・一七	計	一六・一四	一六・一四	九・一二
中等學校	一四・四九	六・一八				
高等女學校	一三・三九	六・一五				
師範學校	一三・二七	五・五一	最近一年間	二〇年前ニ對スル最近ノ割合		五六・五

備考

- 一、一般民衆二十年前は僅かに數縣に過ぎざるを以て若し多數の府縣を加へは更に高率なるべし。
- 二、何れも基礎となりたる數に著しき異動あるを以て%の平均を用ひたり。

又本法施行前後の減少状況を比較するに、小學児童、壯丁及壯丁豫備検診成績の三方面より見て施行前後共均しく減少せるの點に變りなきも、施行前十年間の減少は二割乃至三割強なるに、最近三ヶ年平均(施行後約十年)は一割乃至二割弱を示し聊か遅々たるの成績を得たり。

元より其差大なりと云ふにあらざるも、一見奇なる現象と云はざる可からず。之れが原因に關しては輕々に斷じ難しと雖、已往を追懐するに、日露戦争後の日本文化の發達延びては國民衛生思想の進歩は本法公布後より著しきものありたるなきや(一)及本法公布前若干年より公布に至る間は本病の災禍最も高調せられたる時代丈に各府縣共其被害程度に應じ或は縣令訓令を發し或は通牒等に依り(豫防法施行前の施設参照)、學校工場、接客營業者其他に對し、相當の熱度と緊張味を以て豫防に當り來りたるもの、本法公布と共に制度統一せられ、一律に豫防施設を整へたる代り、特殊の施設は却つて衰へたるにあらざるか(二)例へば從來町村を指定して治療を行はしめ來りたるもの本法公布と共に單に自衛的治療督勵に變り(兵庫の如き)、又は郡市に「トラホーム」囑託醫を置き學校に對し春秋二回検診を施行し治療を行はしたるを施行後廢止せるが如き(大分)、其他明治の末より大正の初めに掛け數名の技術員を以て豫防に當らしめたるを施行前より之れを減員したる府縣なきにあらざるのみならず(新潟)、健康保險法公布の氣運熟するや、工場醫、工場治療所の數漸減せる等(工場豫防施設参照)に見て右様の感を深ふるものなり。要するに治療に對する患者並に督勵上の熱度減じたる爲にあらざるか……。(尤も最近二三年間は治療施設漸増しつゝあるにもせよ)。

トラホーム豫防法施行前後のトラホーム比較

業態	壯丁「トラホーム」		同豫備検査成績		小學児童「トラホーム」	
	患者	減少歩合	患者	減少歩合	患者	減少歩合
今ヨリ二十年前	二二・一四	一	二二・一〇	一	二二・四三	一
豫防法施行前三年平均	一六・二二	割	一六・三〇	二割六分減	一六・〇〇	三割二分減
最近三年平均	一三・八二	一割九分減	一四・五〇	一割一分減	一四・一四	一割八分減

備考

- 一、平均は實數に依り難かりし爲%の平均を用ひたり。
- 二、今より二十年前は一ヶ年分なり。
- 三、壯丁豫備検診の豫防法施行前も一ヶ年分なり。

各府縣別徵兵検査時「トトラホーム」検査成績表

道府縣別	明治四十二年		大正四年		大正十三年		大正十四年		昭和十五年		最近三年平均
	患者數	百分比	患者數	百分比	患者數	百分比	患者數	百分比	患者數	百分比	
北海道	三、九七	三・三	三、三三	一七・四	三、一七	一四・三	三、〇〇	三、〇〇	二、七六	二・四	三・一
東 京	一、三九	六・元	三、〇一	二・八	九、〇九	九・四	九、〇九	九、〇九	一、四七	五・四	七・九
大 阪	八、六	九・五	八、〇	八・〇	九、〇	八・〇	九、〇	九、〇	九、〇	六・四	六・四
東 京	一、五七	二・七	一、五七	一、五七	一、五七	一、五七	一、五七	一、五七	一、五七	一、五七	一、五七
北 海	二、〇〇	二・七	二、〇〇	二・七	二、〇〇	二・七	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二・七	二・七
道 府	三、九七	三・三	三、三三	一七・四	三、一七	一四・三	三、〇〇	三、〇〇	二、七六	二・四	三・一
新 潟	一、五七	二・七	一、五七	一、五七	一、五七	一、五七	一、五七	一、五七	一、五七	一、五七	一、五七
長 崎	二、九七	三・三	二、九七	三・三	二、九七	三・三	二、九七	三・三	二、九七	三・三	二、九七
群 馬	三、九七	三・三	三、九七	三・三	三、九七	三・三	三、九七	三・三	三、九七	三・三	三、九七
茨 城	四、九七	四・三	四、九七	四・三	四、九七	四・三	四、九七	四・三	四、九七	四・三	四、九七
千 葉	五、九七	五・三	五、九七	五・三	五、九七	五・三	五、九七	五・三	五、九七	五・三	五、九七
岩 手	六、九七	六・三	六、九七	六・三	六、九七	六・三	六、九七	六・三	六、九七	六・三	六、九七
青 森	七、九七	七・三	七、九七	七・三	七、九七	七・三	七、九七	七・三	七、九七	七・三	七、九七
山 形	八、九七	八・三	八、九七	八・三	八、九七	八・三	八、九七	八・三	八、九七	八・三	八、九七
秋 田	九、九七	九・三	九、九七	九・三	九、九七	九・三	九、九七	九・三	九、九七	九・三	九、九七

各府縣別壯丁「トトラホーム」検査成績表

道府縣別	二十年前		十年前		大正十三年		大正十四年		昭和十五年		三ヶ年合計
	検査人員	患者數	検査人員	患者數	検査人員	患者數	検査人員	患者數	検査人員	患者數	
北海道	一、五七	三、〇〇	一、五七	三、〇〇	一、五七	三、〇〇	一、五七	三、〇〇	一、五七	三、〇〇	一、五七
東 京	一、五七	三、〇〇	一、五七	三、〇〇	一、五七	三、〇〇	一、五七	三、〇〇	一、五七	三、〇〇	一、五七
大 阪	一、五七	三、〇〇	一、五七	三、〇〇	一、五七	三、〇〇	一、五七	三、〇〇	一、五七	三、〇〇	一、五七
東 京	一、五七	三、〇〇	一、五七	三、〇〇	一、五七	三、〇〇	一、五七	三、〇〇	一、五七	三、〇〇	一、五七
北 海	一、五七	三、〇〇	一、五七	三、〇〇	一、五七	三、〇〇	一、五七	三、〇〇	一、五七	三、〇〇	一、五七
道 府	一、五七	三、〇〇	一、五七	三、〇〇	一、五七	三、〇〇	一、五七	三、〇〇	一、五七	三、〇〇	一、五七
新 潟	一、五七	三、〇〇	一、五七	三、〇〇	一、五七	三、〇〇	一、五七	三、〇〇	一、五七	三、〇〇	一、五七
長 崎	一、五七	三、〇〇	一、五七	三、〇〇	一、五七	三、〇〇	一、五七	三、〇〇	一、五七	三、〇〇	一、五七
群 馬	一、五七	三、〇〇	一、五七	三、〇〇	一、五七	三、〇〇	一、五七	三、〇〇	一、五七	三、〇〇	一、五七
茨 城	一、五七	三、〇〇	一、五七	三、〇〇	一、五七	三、〇〇	一、五七	三、〇〇	一、五七	三、〇〇	一、五七
千 葉	一、五七	三、〇〇	一、五七	三、〇〇	一、五七	三、〇〇	一、五七	三、〇〇	一、五七	三、〇〇	一、五七
岩 手	一、五七	三、〇〇	一、五七	三、〇〇	一、五七	三、〇〇	一、五七	三、〇〇	一、五七	三、〇〇	一、五七
青 森	一、五七	三、〇〇	一、五七	三、〇〇	一、五七	三、〇〇	一、五七	三、〇〇	一、五七	三、〇〇	一、五七
山 形	一、五七	三、〇〇	一、五七	三、〇〇	一、五七	三、〇〇	一、五七	三、〇〇	一、五七	三、〇〇	一、五七
秋 田	一、五七	三、〇〇	一、五七	三、〇〇	一、五七	三、〇〇	一、五七	三、〇〇	一、五七	三、〇〇	一、五七
合 計	一、五七	三、〇〇	一、五七	三、〇〇	一、五七	三、〇〇	一、五七	三、〇〇	一、五七	三、〇〇	一、五七



道府	二十年前		十年前		大正十三年		大正十四年		大正十五年		三ヶ年合計
	人口	患者数	人口	患者数	人口	患者数	人口	患者数	人口	患者数	
千城											
茨木											
栃木											
奈良											
三重											
愛知											
静岡											
山梨											
滋賀											
岐阜											
長野											
富山											
石川											
福井											
秋田											
山形											
和歌山											
徳島											
香川											
愛媛											
合計	三,三六七,七五三	一,〇八三,三〇三	三,〇〇九,九三三	一,〇〇九,九三三	三,〇〇九,九三三	一,〇〇九,九三三	三,〇〇九,九三三	一,〇〇九,九三三	三,〇〇九,九三三	一,〇〇九,九三三	三,〇〇九,九三三

道府	二十年前		十年前		大正十三年		大正十四年		大正十五年		三ヶ年合計
	人口	患者数	人口	患者数	人口	患者数	人口	患者数	人口	患者数	
高知											
福岡											
大分											
佐賀											
熊本											
鹿兒島											
沖繩											
合計	三,三六七,七五三	一,〇八三,三〇三	三,〇〇九,九三三	一,〇〇九,九三三	三,〇〇九,九三三	一,〇〇九,九三三	三,〇〇九,九三三	一,〇〇九,九三三	三,〇〇九,九三三	一,〇〇九,九三三	三,〇〇九,九三三

各府縣別接客業者「トラホーム」検診成績表

道府縣別	二十年前		十年前		大正十三年		大正十四年		大正十五年		三ヶ年合計
	人口	患者数	人口	患者数	人口	患者数	人口	患者数	人口	患者数	
北海道											
東京都											
大阪府											
神奈川県											
兵衛											
長崎											
新潟											
埼玉											
群馬											
千葉											
茨城											
栃木											
群馬											
茨城											
三重											
奈良											
愛知											
静岡											
山梨											
滋賀											
岐阜											
長野											
富山											
石川											
福井											
秋田											
山形											
和歌山											
徳島											
香川											
愛媛											
合計	八,四〇〇,〇〇〇	二,八〇〇,〇〇〇	八,四〇〇,〇〇〇	二,八〇〇,〇〇〇	八,四〇〇,〇〇〇	二,八〇〇,〇〇〇	八,四〇〇,〇〇〇	二,八〇〇,〇〇〇	八,四〇〇,〇〇〇	二,八〇〇,〇〇〇	八,四〇〇,〇〇〇

道府縣別	二十年		二十年		大正十三年		大正十四年		大正十五年		三少年合計	
	人檢	患者數	人檢	患者數	人檢	患者數	人檢	患者數	人檢	患者數	人檢	患者數
山梨			九、六六	五六	一、〇〇	二、九四	八、三三	三、〇〇	三、八二	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇
長野			一、〇〇	二、七九	二、八八	三、〇〇	一、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇
宮城			一、〇〇	三、九四	三、九四	四、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇
福島			一、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇
青森			一、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇
山形			一、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇
秋田			一、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇
石川			一、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇
富山			一、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇
島根			一、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇
岡山			一、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇
廣島			一、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇
山口			一、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇
徳島			一、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇
香川			一、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇
愛媛			一、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇
高知			一、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇
福岡			一、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇
佐賀			一、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇
熊本			一、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇
鹿嶋			一、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇
宮崎			一、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇
鹿児島			一、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇
沖繩			一、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇
合計			一、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇

道府縣別	合計	患者數	割合
沖繩	三、〇〇	一、〇〇	三三・三
合計	三、〇〇	一、〇〇	三三・三

各府縣「トヲホーム」豫防法に依る各種檢診合表 (既往三年平均)

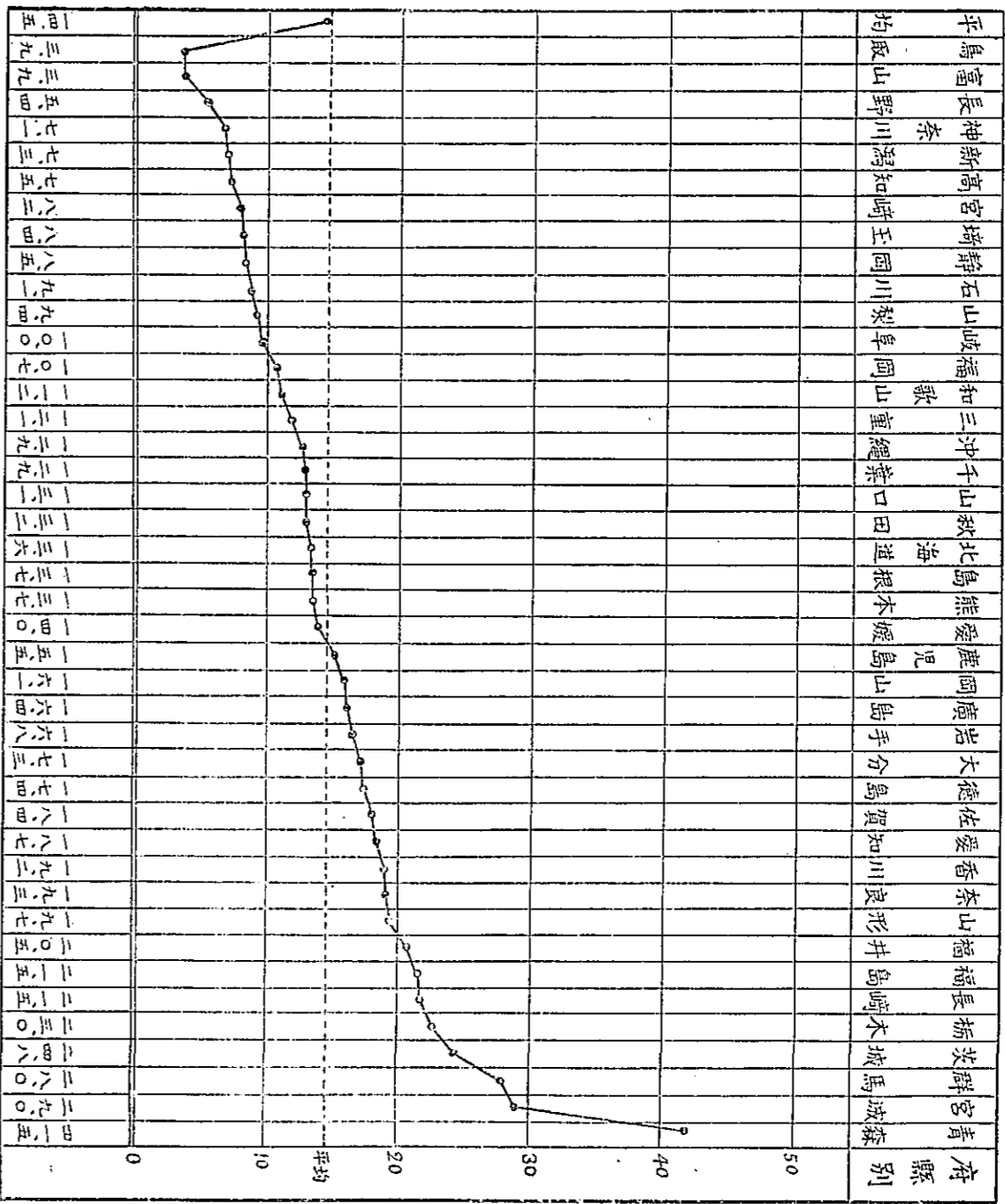
道府縣別	二十年		二十年		大正十三年		大正十四年		大正十五年		三少年合計		%
	人檢	患者數	人檢	患者數	人檢	患者數	人檢	患者數	人檢	患者數	人檢	患者數	
北海道	一、〇〇	三、〇〇	一、〇〇	三、〇〇	一、〇〇	三、〇〇	一、〇〇	三、〇〇	一、〇〇	三、〇〇	一、〇〇	三、〇〇	三三・三
東北	一、〇〇	三、〇〇	一、〇〇	三、〇〇	一、〇〇	三、〇〇	一、〇〇	三、〇〇	一、〇〇	三、〇〇	一、〇〇	三、〇〇	三三・三
関東	一、〇〇	三、〇〇	一、〇〇	三、〇〇	一、〇〇	三、〇〇	一、〇〇	三、〇〇	一、〇〇	三、〇〇	一、〇〇	三、〇〇	三三・三
中部	一、〇〇	三、〇〇	一、〇〇	三、〇〇	一、〇〇	三、〇〇	一、〇〇	三、〇〇	一、〇〇	三、〇〇	一、〇〇	三、〇〇	三三・三
近畿	一、〇〇	三、〇〇	一、〇〇	三、〇〇	一、〇〇	三、〇〇	一、〇〇	三、〇〇	一、〇〇	三、〇〇	一、〇〇	三、〇〇	三三・三
中国	一、〇〇	三、〇〇	一、〇〇	三、〇〇	一、〇〇	三、〇〇	一、〇〇	三、〇〇	一、〇〇	三、〇〇	一、〇〇	三、〇〇	三三・三
四国	一、〇〇	三、〇〇	一、〇〇	三、〇〇	一、〇〇	三、〇〇	一、〇〇	三、〇〇	一、〇〇	三、〇〇	一、〇〇	三、〇〇	三三・三
九州	一、〇〇	三、〇〇	一、〇〇	三、〇〇	一、〇〇	三、〇〇	一、〇〇	三、〇〇	一、〇〇	三、〇〇	一、〇〇	三、〇〇	三三・三
合計	一、〇〇	三、〇〇	一、〇〇	三、〇〇	一、〇〇	三、〇〇	一、〇〇	三、〇〇	一、〇〇	三、〇〇	一、〇〇	三、〇〇	三三・三



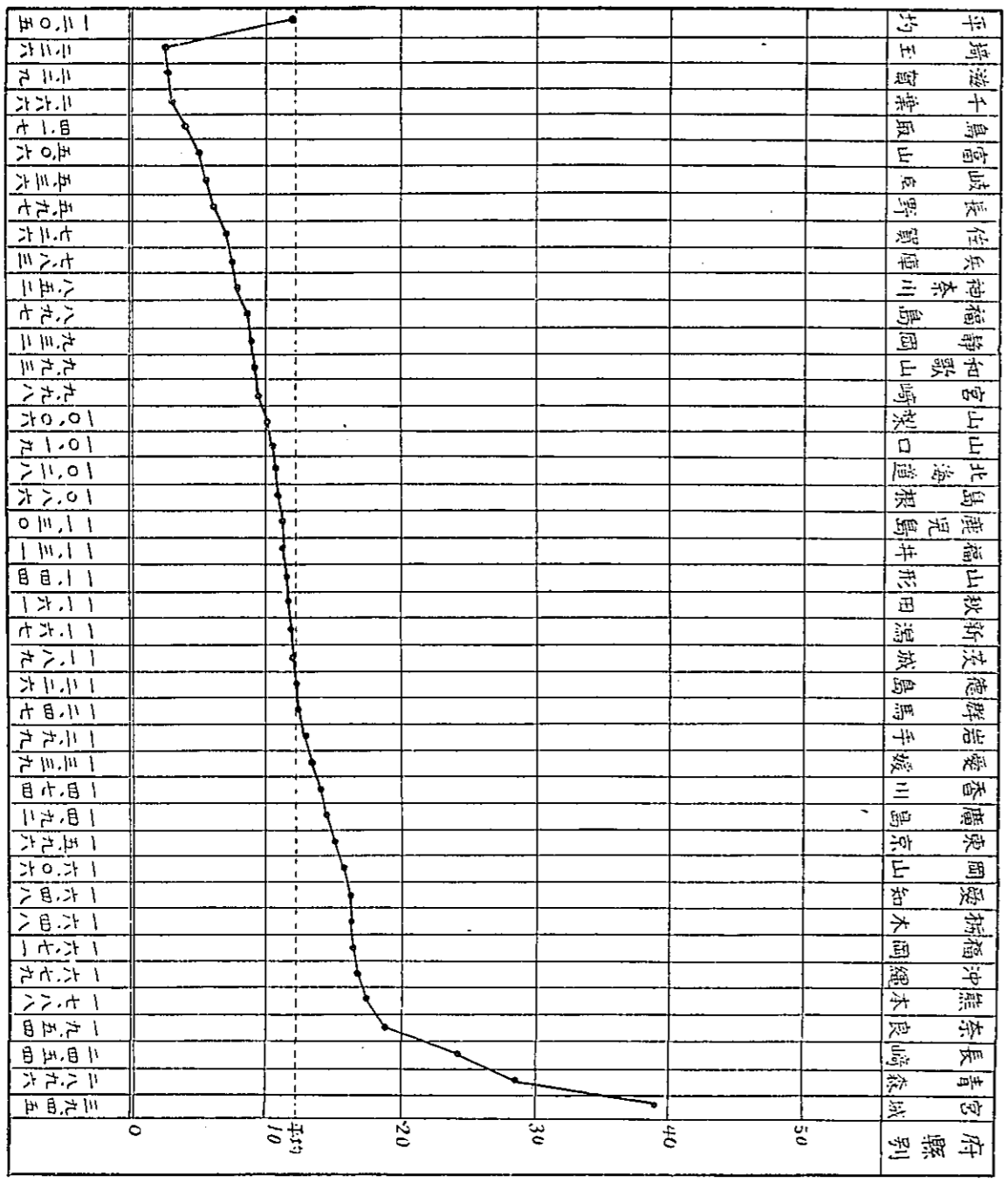
道府縣別	檢 診 人 員					患 者					合 計	% (近三年間平均)
	大正十三年	大正十四年	昭和十五年	合 計	大正十三年	大正十四年	昭和十五年	合 計				
	岩手	6,073	6,073	6,073	18,219	6,768	6,840	6,840	20,448			
青森	5,678	5,678	5,678	17,034	6,184	6,184	6,184	18,552				
山形	5,678	5,678	5,678	17,034	6,184	6,184	6,184	18,552				
秋田	5,678	5,678	5,678	17,034	6,184	6,184	6,184	18,552				
石川	5,678	5,678	5,678	17,034	6,184	6,184	6,184	18,552				
富山	5,678	5,678	5,678	17,034	6,184	6,184	6,184	18,552				
島根	5,678	5,678	5,678	17,034	6,184	6,184	6,184	18,552				
鳥取	5,678	5,678	5,678	17,034	6,184	6,184	6,184	18,552				
岡山	5,678	5,678	5,678	17,034	6,184	6,184	6,184	18,552				
広島	5,678	5,678	5,678	17,034	6,184	6,184	6,184	18,552				
山梨	5,678	5,678	5,678	17,034	6,184	6,184	6,184	18,552				
徳島	5,678	5,678	5,678	17,034	6,184	6,184	6,184	18,552				
香川	5,678	5,678	5,678	17,034	6,184	6,184	6,184	18,552				
愛媛	5,678	5,678	5,678	17,034	6,184	6,184	6,184	18,552				
高知	5,678	5,678	5,678	17,034	6,184	6,184	6,184	18,552				
福岡	5,678	5,678	5,678	17,034	6,184	6,184	6,184	18,552				
大分	5,678	5,678	5,678	17,034	6,184	6,184	6,184	18,552				
佐賀	5,678	5,678	5,678	17,034	6,184	6,184	6,184	18,552				
熊本	5,678	5,678	5,678	17,034	6,184	6,184	6,184	18,552				
鹿儿岛	5,678	5,678	5,678	17,034	6,184	6,184	6,184	18,552				
沖縄	5,678	5,678	5,678	17,034	6,184	6,184	6,184	18,552				
合 計	67,600	67,600	67,600	202,800	79,125	79,125	79,125	237,375	11.0%			

道府縣別	檢 診 人 員					患 者					合 計	% (近三年間平均)
	大正十三年	大正十四年	昭和十五年	合 計	大正十三年	大正十四年	昭和十五年	合 計				
	岩手	6,073	6,073	6,073	18,219	6,768	6,840	6,840	20,448			
青森	5,678	5,678	5,678	17,034	6,184	6,184	6,184	18,552				
茨城	5,678	5,678	5,678	17,034	6,184	6,184	6,184	18,552				
埼玉	5,678	5,678	5,678	17,034	6,184	6,184	6,184	18,552				
福岛	5,678	5,678	5,678	17,034	6,184	6,184	6,184	18,552				
山梨	5,678	5,678	5,678	17,034	6,184	6,184	6,184	18,552				
静冈	5,678	5,678	5,678	17,034	6,184	6,184	6,184	18,552				
岐阜	5,678	5,678	5,678	17,034	6,184	6,184	6,184	18,552				
爱知	5,678	5,678	5,678	17,034	6,184	6,184	6,184	18,552				
三重	5,678	5,678	5,678	17,034	6,184	6,184	6,184	18,552				
奈良	5,678	5,678	5,678	17,034	6,184	6,184	6,184	18,552				
和歌山	5,678	5,678	5,678	17,034	6,184	6,184	6,184	18,552				
徳岛	5,678	5,678	5,678	17,034	6,184	6,184	6,184	18,552				
香川	5,678	5,678	5,678	17,034	6,184	6,184	6,184	18,552				
爱媛	5,678	5,678	5,678	17,034	6,184	6,184	6,184	18,552				
高知	5,678	5,678	5,678	17,034	6,184	6,184	6,184	18,552				
福岡	5,678	5,678	5,678	17,034	6,184	6,184	6,184	18,552				
大分	5,678	5,678	5,678	17,034	6,184	6,184	6,184	18,552				
佐賀	5,678	5,678	5,678	17,034	6,184	6,184	6,184	18,552				
熊本	5,678	5,678	5,678	17,034	6,184	6,184	6,184	18,552				
鹿儿岛	5,678	5,678	5,678	17,034	6,184	6,184	6,184	18,552				
沖縄	5,678	5,678	5,678	17,034	6,184	6,184	6,184	18,552				
平 均				17,600				52,800	30%			

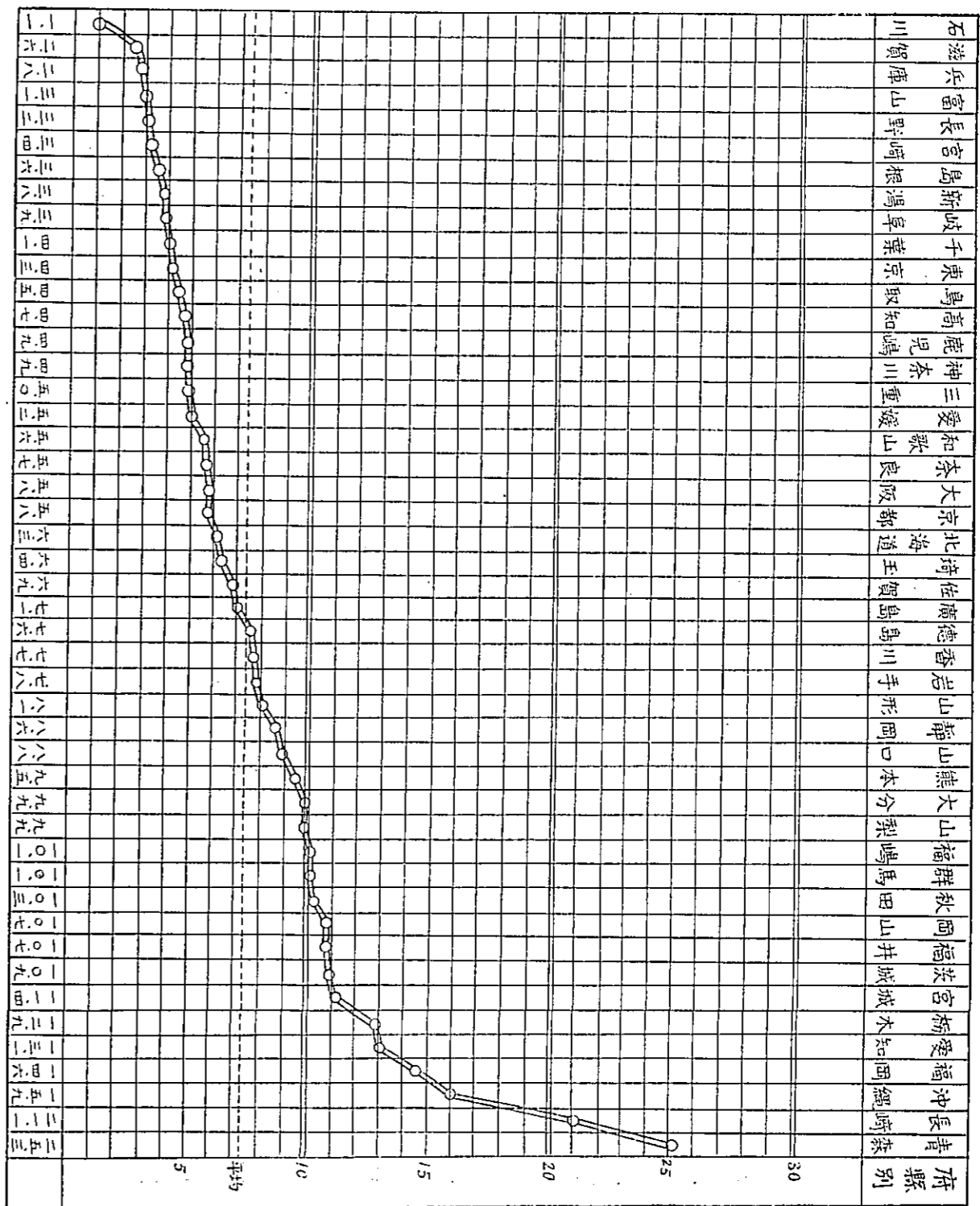
各府縣別徴兵検査時「ラホーム」検査順位成績表 (最近三年間平均)



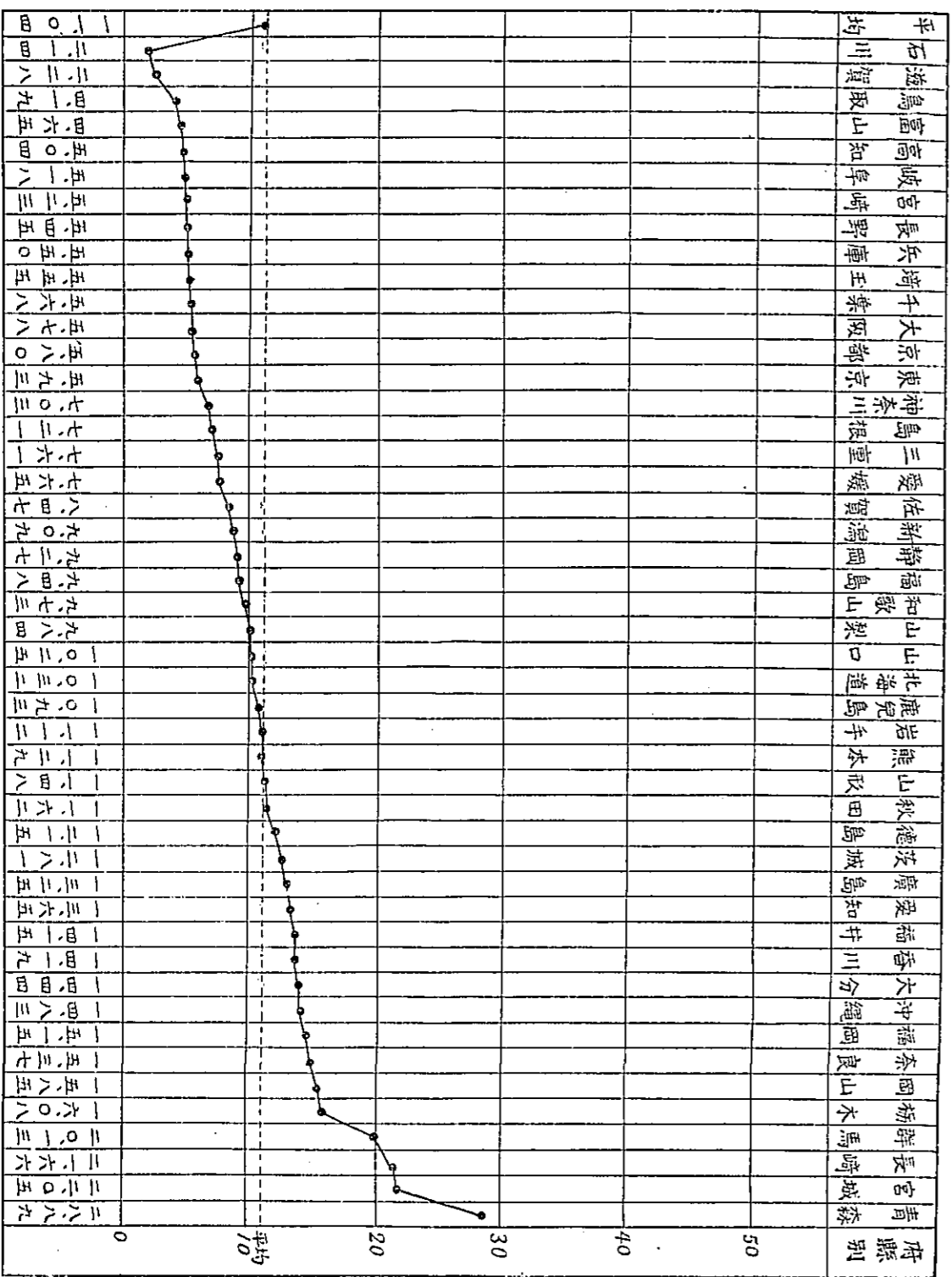
各府縣別「丁」検査成績順位表 (最近三年間平均)



各府縣別其他「レントラホーム」検査成績順位表 (最近三年間平均)

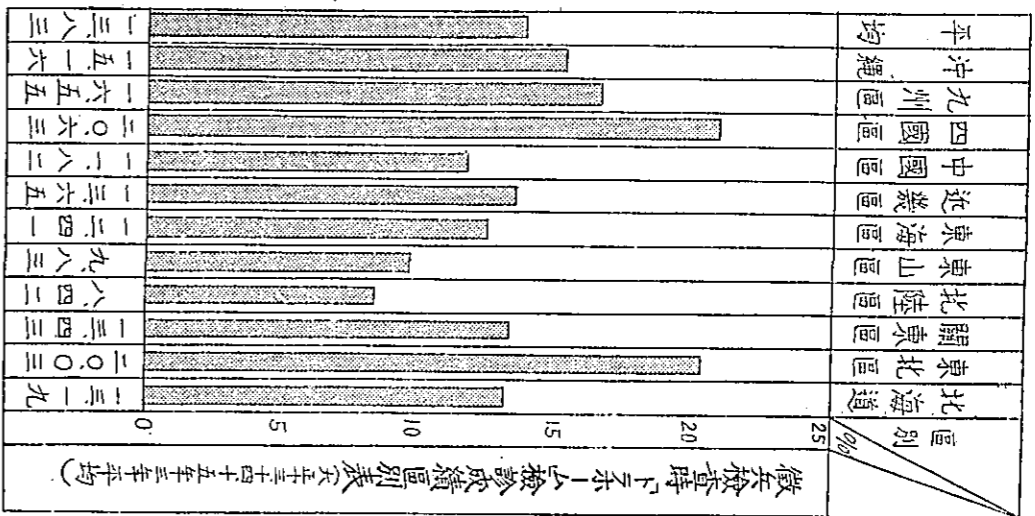


各府県別接客業者トラホーム「検査成績順位表」(最近三年間平均)

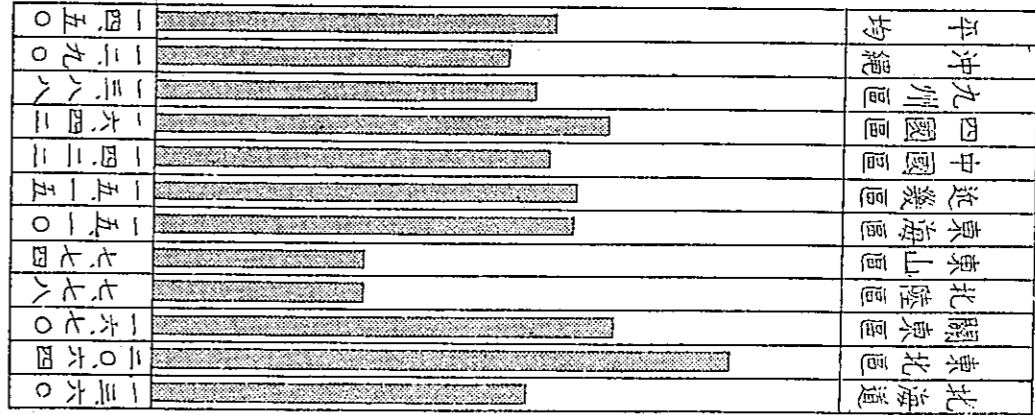


各府県「トラホーム」順位表

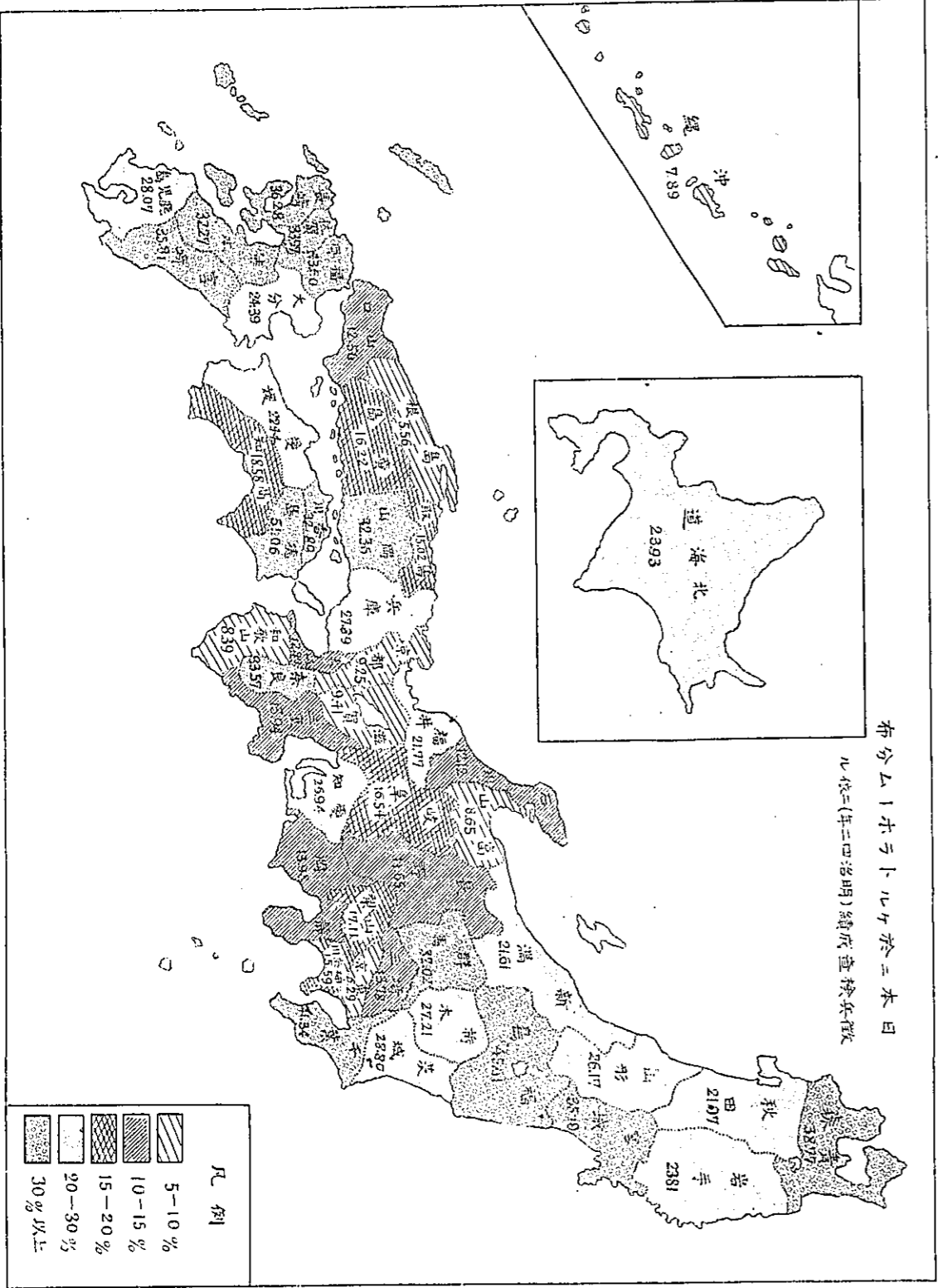
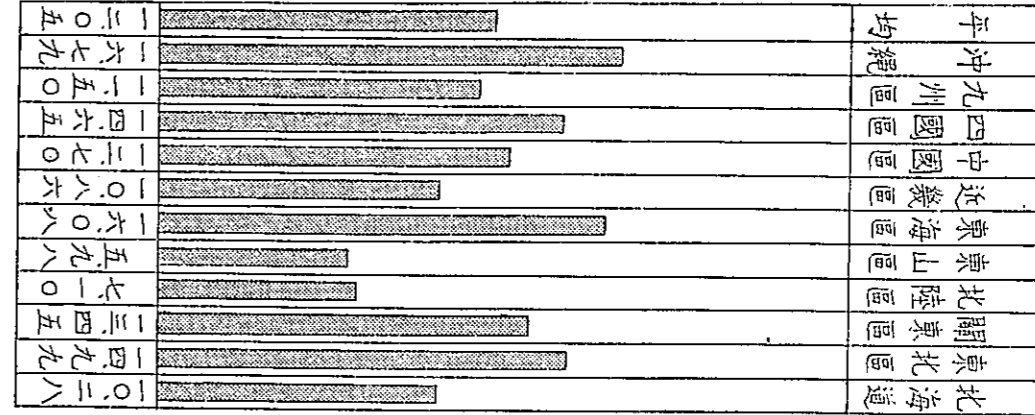
(各種検査各業ヨリ具クシテ往三ヶ年間平均)

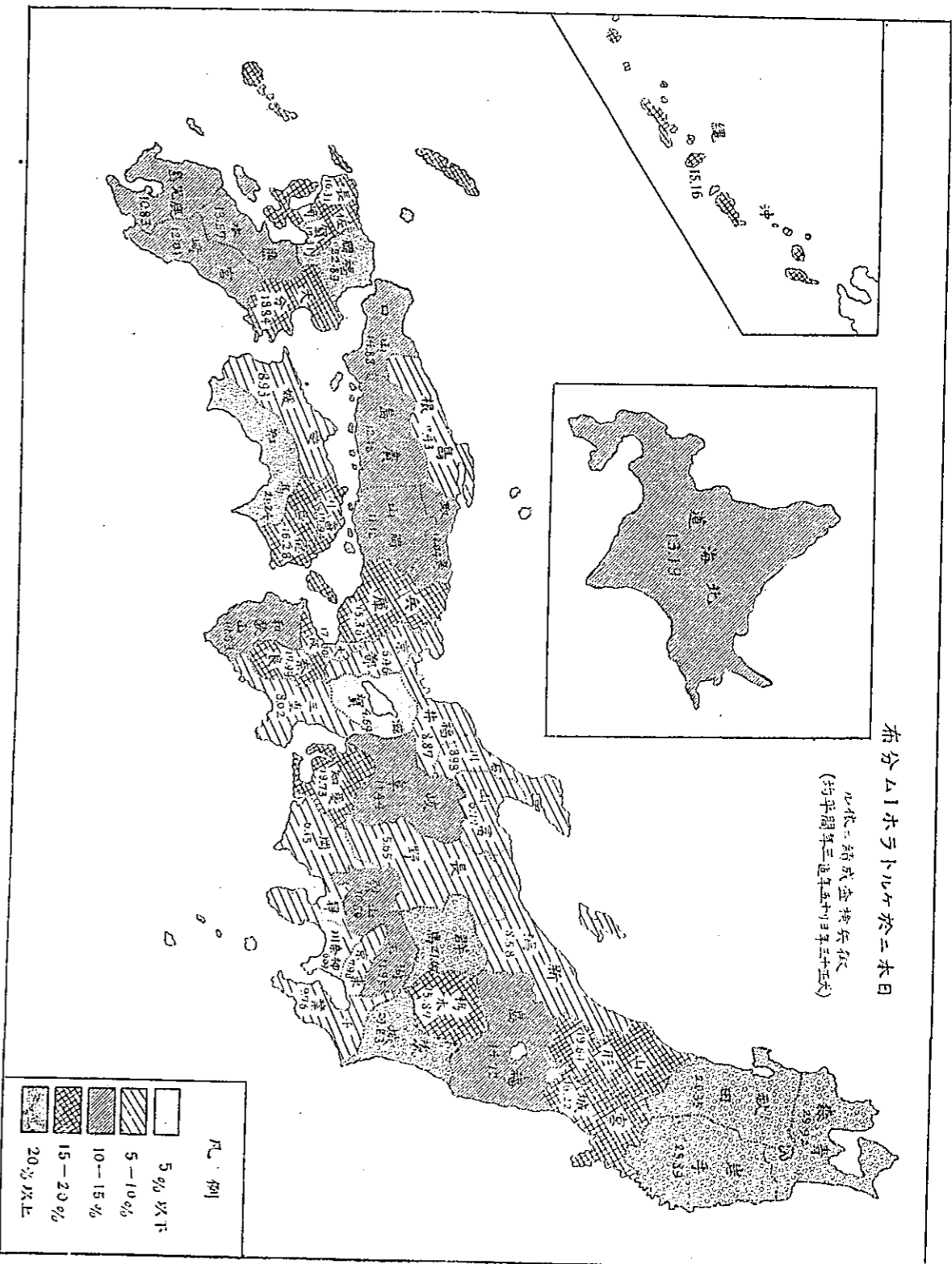


壯「下系」公檢診成績區別表(前公)

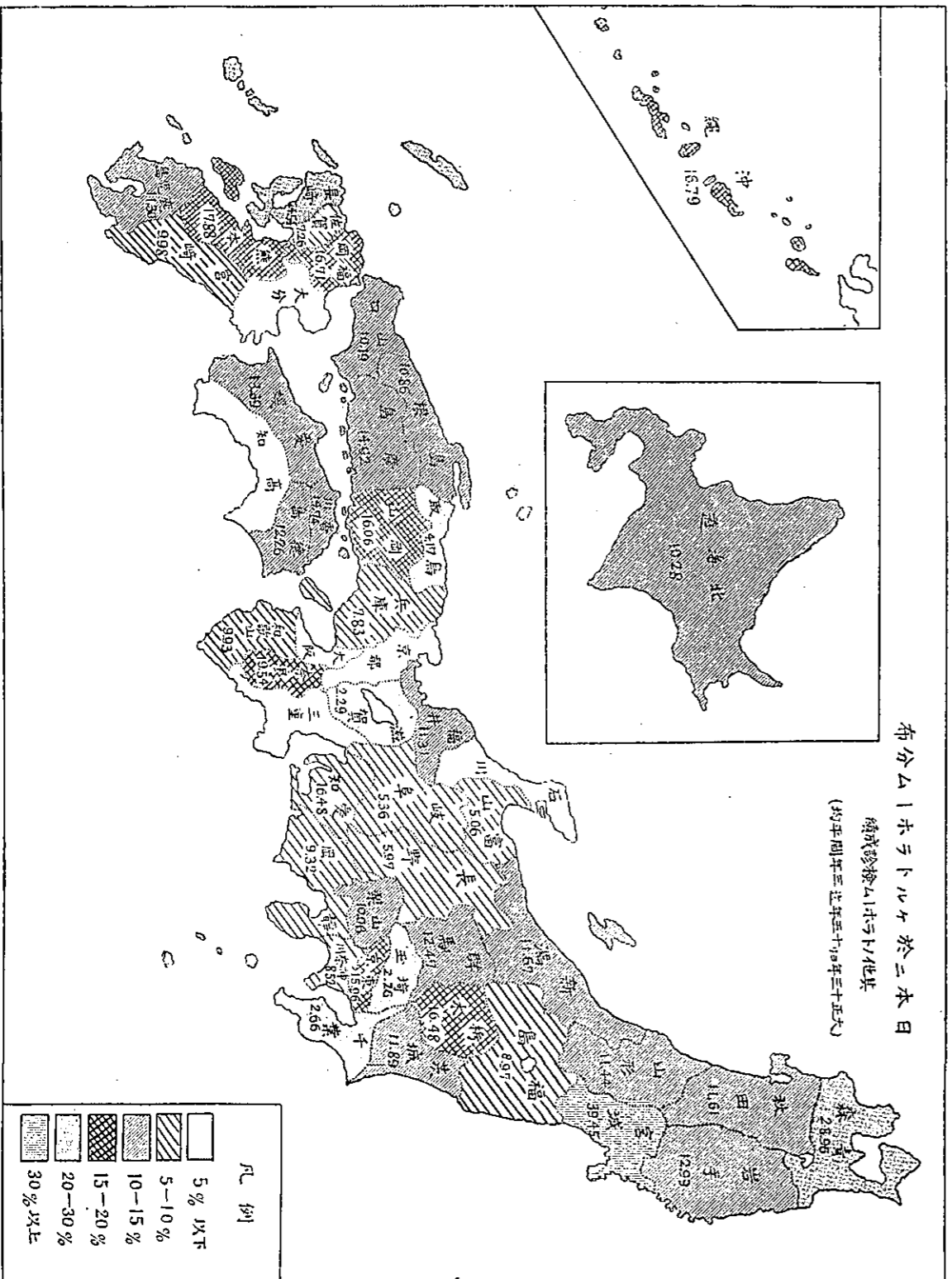


其他「下系」公檢診成績區別表(前公)

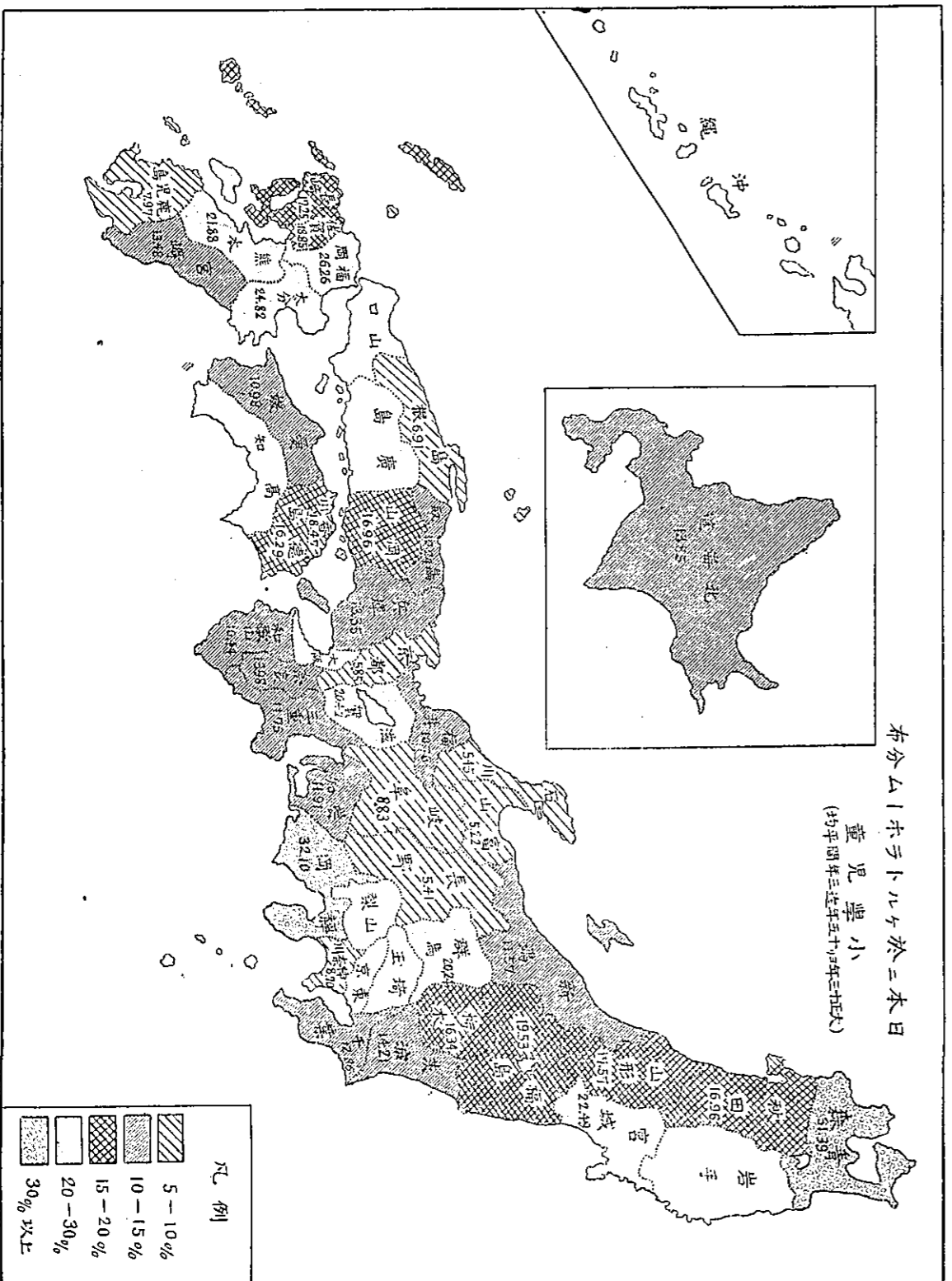
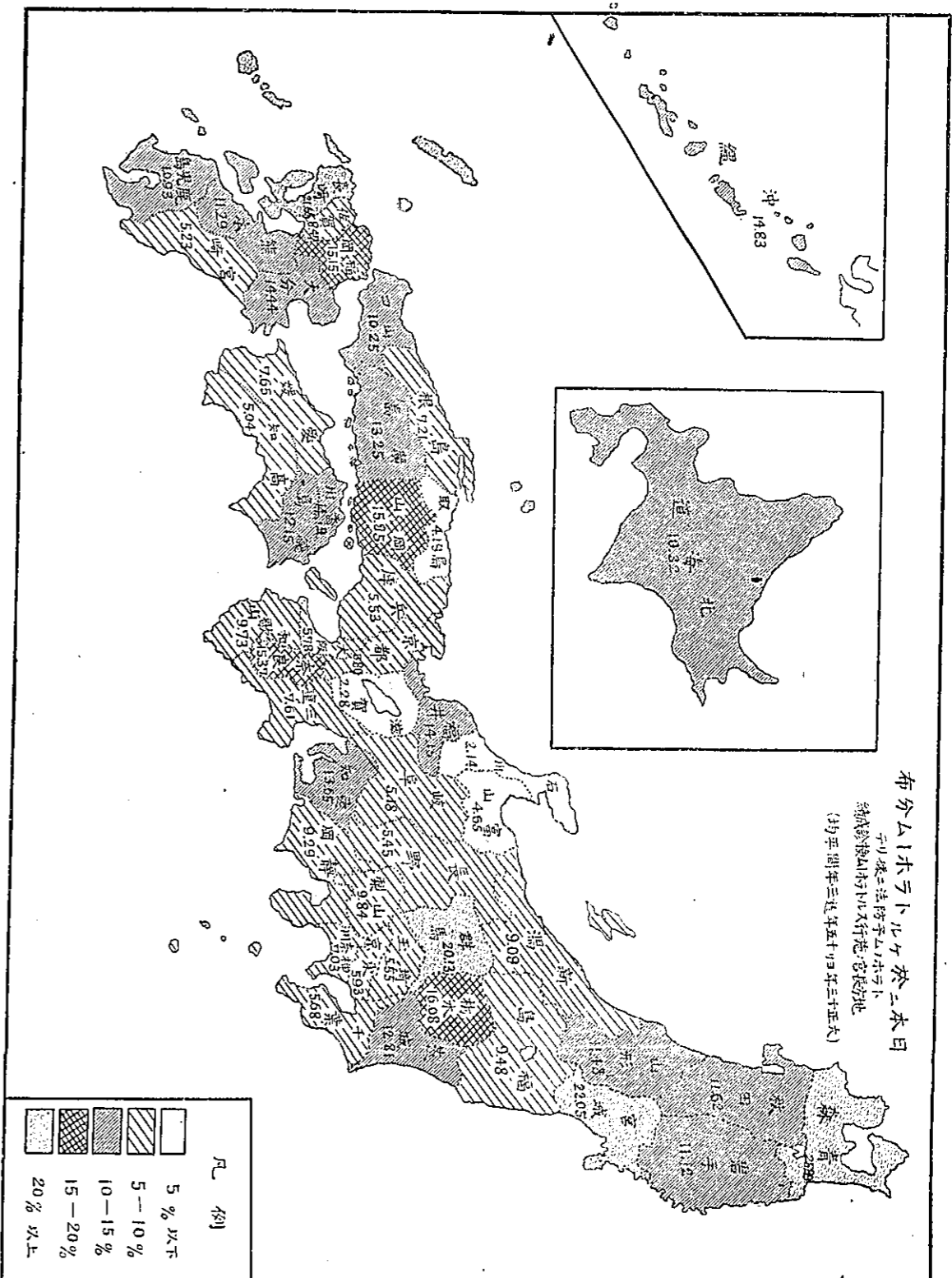




棉花  
 分布ノ棉花ノ日本  
 (代表ニ新成産棉糸  
 (約平均年三連算至十三年五五式))



棉花  
 分布ノ棉花ノ日本  
 (代表ニ新成産棉糸  
 (約平均年三連算至十三年五五式))



第三 殖民地と「トラホーム」

一、臺灣

臺灣「トラホーム」の來歴に就ては何等記載の據るべきもなく、恐らく埃及のその如く古來土着的に深く島民間に浸潤し居たるものなるべし。何れにもせよ同島は本病患者頗る多く、全島に蔓延し、從つて又盲者に富めること驚くべきものと云ふ。明治三十九年臨時戸口調査に當り發見されたる盲者は一萬五千餘人にして、人口萬對五二人に當り、大正五年調査の結果にては五五人を算し、日本の版圖に屬して以來著しく増加し居らざるは照代の恩恵と云ふべく、而も其主因「トラホーム」に存することを注目せられて以來、本病に關する調査は全島に施行せらるゝに至り、大正四年來の調査成績は別表の如く、果然盲者並に家族的罹病多きこと驚に堪へたるものと云ふ。彼のナイル沿岸民の慣稱する如く太古の埃及人は皆盲者なりしと云ふ惡まれ口も、本島の如き濃厚病地の実狀を知るに及び、古代埃及の模様を冥想せられ、或は似寄りの事實ありしならんと想像せしむるものあり。

臺灣「トラホーム」患者表 (大正四—六年調査)

地方別	人口	患者數	率	備考
北部地方	一、二二六、〇〇〇	二六七、一四五	二一・七九	四縣
中部地方	七一八、〇〇〇	一三一、八九〇	一八・三七	二縣
南部地方	一、三九四、〇〇〇	六三八、八四四	四五・九六	三縣
澎湖島	五七、〇〇〇	三〇、七四五	五三・九四	
計	三、三九五、〇〇〇	一、〇六八、六二四	三一・四八	

本表に依れば北部中部は比較的低率なるも、南部及島部は著しき高率を示せり。此れが原因に就ては遽かに斷定を許さざるも中部以北は比較的文化的恩恵に浴すること早かりし爲、少なくとも文化的乃至清潔なる生活者多き結果と見るべきが如し。

尙同島に於ける内地人には本病極めて少なきもの、如く、近着第六回保健衛生調査成績に徴すれば、能高郡の一部人口三、二四九人の部落に對し施行したる結果内地人一〇名中一人の本病患者なきに、本島人三、一三七人中二九・三%の「トラホーム」患者あり、曩に大正五、六年頃の調査に係る島民「トラホーム」平均三一・四八に殆んど近き數を示せり。(以上臺灣總督府調査)

尙最近本縣の照會に對し總督府よりの回答によれば、同地の「トラホーム」は次の如く接客業者及學校生徒に在りては一〇%内外にして著

しく少なく、工場従業者學童及殊に一般住民の「トラホーム」は、此れを大正五、六年頃の臺灣住民罹病率に比すれば稍低率となれるも然も尙一般住民に於て約二七%學童二八%工場の如きは四〇%を示し平均二四・三%を示せり。(註接客業者及學校生徒中には内地人も多かるべし故に此の減率を悉く臺灣文化の賜と見るべきや否不明なるも)。

臺灣檢診結果表

(昭和二年新潟縣調査)

業 種 別	檢 診 人 員	患 者 數	百 分 比 例
接客業者	八四、四二九	九、一五六	一〇・八四
工場	九七五	三九一	四〇・一〇
學校	二八七、三九〇	八二、五九四	二八・七四
學校生徒	一四、五二八	一、五二一	一〇・四七
一般住民	一五、八三五	四、二七〇	二六・九七
計	四〇三、一五七	九七、九三二	二四・三〇

二、朝鮮の「トラホーム」

朝鮮に於ては目下調査中の趣なるが、大正七年同地道慈惠院其他の調査せるものを見るに(朝鮮眼科學會雜誌大正七年八月早野)

道慈惠院取扱

内地人	眼 患 總 數	内「トラホーム」患者	眼 患 對 比 例
朝鮮人	一四、二二九	四、四〇八	三〇・九七
内地人	九一、二九一	一三、八九三	一五・二二

總督府醫院統計

眼 患 總 數	内「トラホーム」患者	眼 患 對 比 例
内地人	五、五四八	一一・二〇
		二〇・一九

朝鮮人	眼患總數	内「トラホーム」患者	患者對%
六、二八一		一、一七七	一八・七四

學校調査成績

内地人	眼患總數	内「トラホーム」患者	患者對%
三六、四五二		四、七六九	一三・〇八
五、六七三		四、二八二	七・五五

「トラホーム」合併症及後胎症

内地人	眼患總數	内「トラホーム」患者	患者對%
			三二・五九
朝鮮人			五二・七六

の状況にして、病院取扱患者のみにては醫門を叩くもの、甚敷如何により患者率に異動を生ずるを以て、茲に現はれたる罹病率を以て直ちに内地人と朝鮮人との罹病關係を認諾する能はざるや知るべからずと雖も、學童検査成績に於ても兩者間には著しき相違あり、即朝鮮人は殆んど内地人の半數に匹敵する少數を示せり。而して此の學童検査も検査地其他に關する記載なきを以て此れを以て直ちに朝鮮人並朝鮮居住内地人の總てを律し能ふや否不明なり。乍然前記統計のみに依れば朝鮮人には「トラホーム」少なく却つて内地人に多しと見るの外なし。

三、關東州に於ける「トラホーム」

に關し同應より得たる材料に依れば、接客業者工場等は六一・七%學校生徒一般住民は一〇・一一%、學童のみは一五%を算し大體内地に於けると大差なき状況なり。

關東州檢診結果表

(昭和二年新潟縣調査)

業 應 別	檢 診 人 員	患 者 數	百 分 比 例
接客業者	三〇、六四一	一、八八三	六・一五
工場	六、二四三	四六九	七・五一
學校児童	一〇九、一八三	一六、四八八	一五・一〇
學校生徒	一八、五七四	二、〇七一	一一・一五
一般住民	九、一一九	一、一五七	一二・六九
計	一七三、七六〇	二二、〇六八	一二・七〇

四、南滿州地方の「トラホーム」

大正六年五月の調査に依れば小學児童三〇・五%、公學堂兒童四六・二%(小口)又同年月調査にては小學校二四・九%公學堂二八・九%(月盛)。今之を平均すれば小學校兒童二七・七%公學堂三七・五%にして、臺灣に於ける率と大差なき状況なり。

又大正十年十二月の調査にては山東省の各地共極めて高率にして臺灣を凌駕し平均六三・五%を示せり。固より檢診人員極めて少數なるを以て同地一般を推し得るや否疑問なき能はざるも大要を知る資料たるべし。(長野文治、富田要、「トラホーム」豫防協會雜誌第二十四號) 尙撫順地方に於ても「トラホーム」の蔓延甚だしく(山東省、青島附近に於ける如く濃厚ならず)彼地にては民間部落にて健康男子に六〇%以上の「トラホーム」あり、炭坑に使用せる苦力には二〇%内外の「トラホーム」發見すと云ふ。(大正六年「トラホーム」豫防協會雜誌第五號)

五、樺太の「トラホーム」

樺太に於ては學校生徒八・六四%小學児童一六・五三%にして關東州と相似たるものあり平均一六・〇一%となる。

樺太檢診結果表

(昭和二年新潟縣調査)

業 應 別	檢 診 人 員	患 者 數	百 分 比 例
學校児童	七〇、五〇一	一一、六五三	一六・五三
學校生徒	四、二二六	三六五	八・六四
計	七四、七二八	一二、〇一八	一六・〇一



體性及年齡別「トラホーム」患者 (昭和三年一月)

年齡	種族		檢査人員		検査人員百中「トラホーム」患者	
	男	女	男	女	男	女
五歲未滿	本島人	内地人	三九	三〇	八・五	一〇・〇
十五歲未滿	本島人	内地人	三九	三〇	八・五	一〇・〇
十五歲以上	本島人	内地人	三九	三〇	八・五	一〇・〇
二十五歲未滿	本島人	内地人	三九	三〇	八・五	一〇・〇
二十五歲以上	本島人	内地人	三九	三〇	八・五	一〇・〇
三十五歲未滿	本島人	内地人	三九	三〇	八・五	一〇・〇
三十五歲以上	本島人	内地人	三九	三〇	八・五	一〇・〇
四十五歲未滿	本島人	内地人	三九	三〇	八・五	一〇・〇
四十五歲以上	本島人	内地人	三九	三〇	八・五	一〇・〇
五十五歲未滿	本島人	内地人	三九	三〇	八・五	一〇・〇
五十五歲以上	本島人	内地人	三九	三〇	八・五	一〇・〇
合計	本島人	内地人	三九	三〇	八・五	一〇・〇

支那山東省公學堂生徒「トラホーム」檢査統計

合計	種族		檢査人員		検査人員百中「トラホーム」患者	
	本島人	内地人	男	女	男	女
五十五歲以上	本島人	内地人	三九	三〇	八・五	一〇・〇
六十歲以上	本島人	内地人	三九	三〇	八・五	一〇・〇
六十五歲以上	本島人	内地人	三九	三〇	八・五	一〇・〇
七十歲以上	本島人	内地人	三九	三〇	八・五	一〇・〇
七十五歲以上	本島人	内地人	三九	三〇	八・五	一〇・〇
八十歲以上	本島人	内地人	三九	三〇	八・五	一〇・〇
八十五歲以上	本島人	内地人	三九	三〇	八・五	一〇・〇
九十歲以上	本島人	内地人	三九	三〇	八・五	一〇・〇
合計	本島人	内地人	三九	三〇	八・五	一〇・〇

學堂名	被檢査患者數		被檢査患者數		被檢査患者數		被檢査患者數		被檢査患者數		計
	人數	%	人數	%	人數	%	人數	%	人數	%	
青島	三	〇・〇	三	〇・〇	三	〇・〇	三	〇・〇	三	〇・〇	三
嶗山	三	〇・〇	三	〇・〇	三	〇・〇	三	〇・〇	三	〇・〇	三
東鎮	三	〇・〇	三	〇・〇	三	〇・〇	三	〇・〇	三	〇・〇	三
內計	三	〇・〇	三	〇・〇	三	〇・〇	三	〇・〇	三	〇・〇	三

學 年 名	李 村 管 內													合 計		
	上 登	發 登	香 登	趙 登	埠 登	姜 登	宋 登	侯 登	法 登	朋 登	育 登	灰 登	九 登		下 登	千 登
一 學 年 生	107	107	107	107	107	107	107	107	107	107	107	107	107	107	107	107
二 學 年 生	107	107	107	107	107	107	107	107	107	107	107	107	107	107	107	107
三 學 年 生	107	107	107	107	107	107	107	107	107	107	107	107	107	107	107	107
四 學 年 生	107	107	107	107	107	107	107	107	107	107	107	107	107	107	107	107
五 學 年 生	107	107	107	107	107	107	107	107	107	107	107	107	107	107	107	107
計	535	535	535	535	535	535	535	535	535	535	535	535	535	535	535	535

備考 右の外に年齢別表、男女別表及富の程度に據る區別表を掲げ最後に其の觀察を次の如く總括せり  
 一、山東省支那人學童の「トラホーム」数は非常に多数にして尠くも其過半数を占む  
 二、學童の「トラホーム」罹患率は年齢の長する程減少して由りて「病自然治療率は比較的大なるを推知し得  
 三、男子は女子に比し「ト」病率稍々多し  
 四、家庭生計等の差は格別「ト」病率に差違を示さざるが如し

五、市街衛生状態の如何は、「ト」病罹患率に多大の影響を示す如し  
 第四 新潟縣に於ける「トラホーム」

本縣の事情は、既に全國中に包含せられたる本調査の該當地として、他の幾多統計とも關聯あるを以て、茲に消長の大要を略述せんとす。  
 本縣に於ける「トラホーム」統計は、明治三十二年高田に於て眼病患者一九七八人を検査し、「トラホーム」患者六五七人即三三・二%を發見  
 報告せるを初めとす(生島吉之助)、次で明治三十五年には新潟市小學校兒童を調査し、一、六三四人中「トラホーム」患者四五二人即二七・六  
 %を發見し(家坂清次郎)、越えて明治三十六年には、全縣下の小學校、中學校、女學校、師範學校の「トラホーム」検査を施行の結果左の如き  
 成績を得居れり。

明治三十六年縣下「トラホーム」検査成績表 (新潟縣)

尋常小學校	三四・二七%
高等小學校	二九・五八%
中學校	一九・三五%
女學校	二〇・四六%
師範學校	八・四八%
其他	二一・六五%
合計	三〇・〇八%
男	二九・四六%
女	三〇・九六%

前表に依れば、當時本縣の「トラホーム」は三〇・〇八%内外の高率を示し、女は男より多く、大體縣下全般に蔓延し、殊に海岸地帯は、山  
 地に比し一般に高率を示せり。  
 然るに爾來遞次著しく減退せること如次。

學 年 名	二十年前	十年前	最近三年間平均%
壯丁豫備檢診	二五・一八	一七・八七	七・三〇
一般住民	一三・五九	一四・一三	一一・六七
學校		一三・一三	一一・五七

更に其遞減の状況を見るに、壯丁最も顯著、次は一般民衆にして、學校最も緩慢なり。乍然何れも最早明治三十六、七年頃の如き比にあらず、大體に於て當時の約三分の一に減せる状況なり。殊に壯丁の減率著しき重要原因は、比較的治療(不完全ながらも)受くるもの多き結果にして、一般民衆及學童に至りては、接客營業者を除くの外、治療最も不徹底なるが爲なるべし。

又各種接客營業者の檢診成績より見るも、村表の如く明治四十二年以來著しく減少し、現在に於ては當時の約四分の一に低下せる状況なり。縣下に「トラホーム」絶無の町村なきや。

徴兵檢査成績に依り既往三ヶ年間(昭和二年)引續き本病檢出なき十一ヶ村を得たるを以て、更に調査の結果此れ等は何れも山間僻陬の交通稀粗なる寒村にして、各村小學兒童檢診の結果は次表の如く、檢診人員も至つて少數にして、患者も亦概して低率なるが、中には縣下平均を突破するものあるのみならず、既往三ヶ年中全く本病なき村は絶無なる結果を得たり。

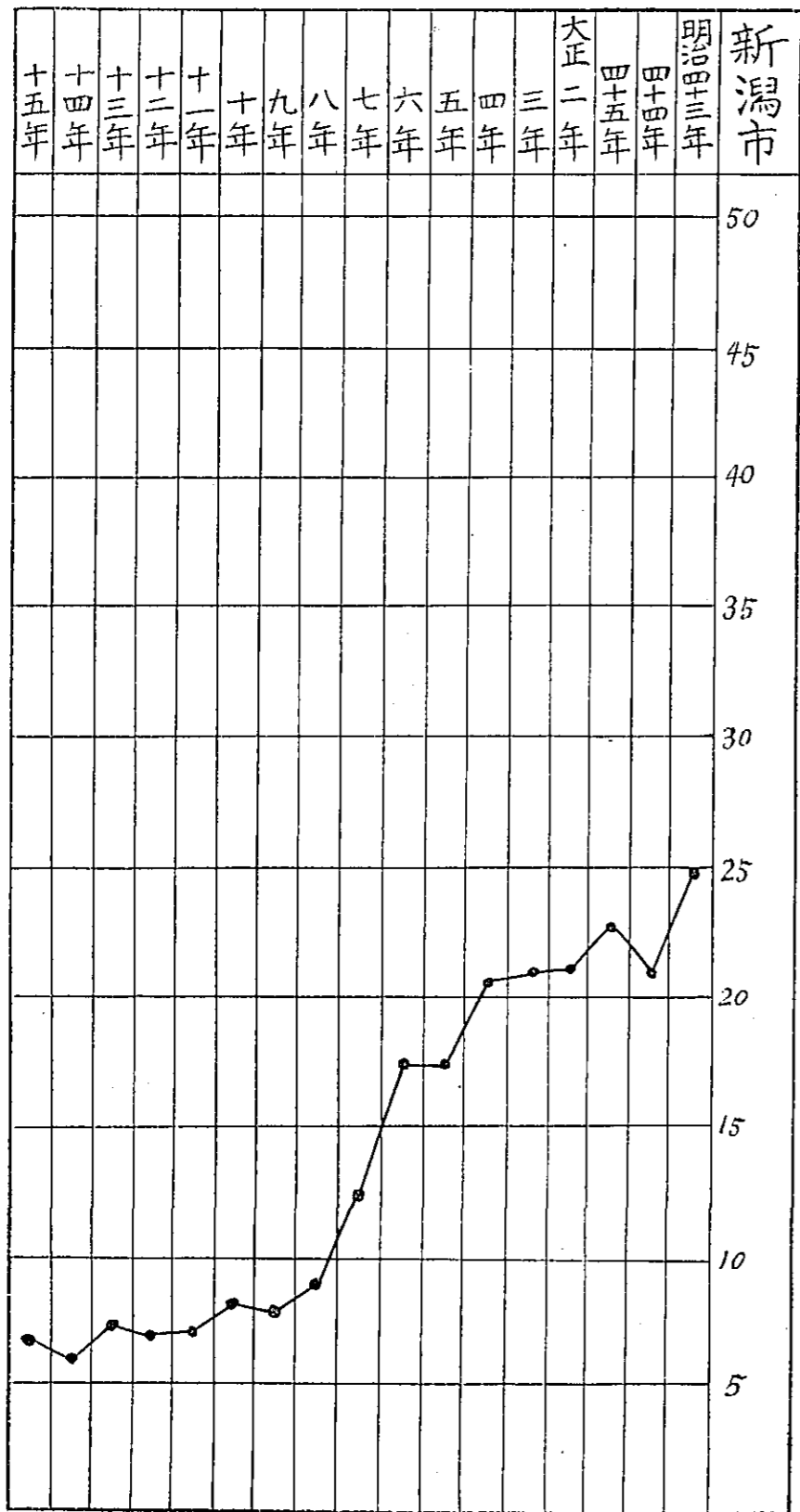
大正十四、十五年昭徴兵檢査時「トラホーム」患者なき村の小學兒童「トラホーム」  
和二年三年間平均徴兵檢査時「トラホーム」患者なき村の小學兒童「トラホーム」

村名	性別		檢診人員	患者	%	檢診人員	患者	%	檢診人員	患者	%	檢診人員	患者	%
	男	女												
東浦原郡東川村	九	六	一〇〇	一	一	一〇〇	一	一	一〇〇	一	一	一〇〇	一	一
古志郡半藏金村	六	六	一〇〇	一	一	一〇〇	一	一	一〇〇	一	一	一〇〇	一	一
南魚沼村三岡村	一	一	一〇〇	一	一	一〇〇	一	一	一〇〇	一	一	一〇〇	一	一
同 三俣村	一	一	一〇〇	一	一	一〇〇	一	一	一〇〇	一	一	一〇〇	一	一
中頸城郡黒岩村	一	一	一〇〇	一	一	一〇〇	一	一	一〇〇	一	一	一〇〇	一	一

村名	性別		計	檢診人員	患者	%	計	檢診人員	患者	%	計	檢診人員	患者	%
	男	女												
西頸城郡歌外波村	一	一	二	一	一	一〇〇	一	一	一〇〇	一	一	一〇〇	一	一
同 上路村	一	一	二	一	一	一〇〇	一	一	一〇〇	一	一	一〇〇	一	一
同 小瀧村	一	一	二	一	一	一〇〇	一	一	一〇〇	一	一	一〇〇	一	一
同 根知村	一	一	二	一	一	一〇〇	一	一	一〇〇	一	一	一〇〇	一	一
岩船郡粟島浦村	一	一	二	一	一	一〇〇	一	一	一〇〇	一	一	一〇〇	一	一
刈羽郡山横澤村	一	一	二	一	一	一〇〇	一	一	一〇〇	一	一	一〇〇	一	一

新潟縣壯丁「トラホーム」豫備檢診成績表

郡市別	性別		計	檢診人員	患者	%	計	檢診人員	患者	%	計	檢診人員	患者	%
	男	女												
新 潟 市	三・九	三・六	七・五	一六・四	一六・六	二二〇・八	三・五	二・五	二二〇・八	二・九	三・九	三・六	七・五	八・〇
長 岡 市	三・九	三・六	七・五	一六・四	一六・六	二二〇・八	三・五	二・五	二二〇・八	三・五	三・九	三・六	七・五	八・〇
高 田 市	三・九	三・六	七・五	一六・四	一六・六	二二〇・八	三・五	二・五	二二〇・八	三・五	三・九	三・六	七・五	八・〇
北 蒲 原 郡	三・九	三・六	七・五	一六・四	一六・六	二二〇・八	三・五	二・五	二二〇・八	三・五	三・九	三・六	七・五	八・〇
東 蒲 原 郡	三・九	三・六	七・五	一六・四	一六・六	二二〇・八	三・五	二・五	二二〇・八	三・五	三・九	三・六	七・五	八・〇
中 蒲 原 郡	三・九	三・六	七・五	一六・四	一六・六	二二〇・八	三・五	二・五	二二〇・八	三・五	三・九	三・六	七・五	八・〇



新潟縣壯丁「トラホーム」豫備検診年次別%表

郡市別	明治三十三年	明治三十四年	明治三十五年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年	大正六年	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年	大正十一年	大正十二年	大正十三年	大正十四年	大正十五年	最近三年平均
西蒲原郡	25.5	24.0	24.0	26.3	25.5	26.6	27.6	28.3	28.3	29.5	30.3	30.3	30.3	30.3	30.3	30.3	30.3	29.3
南蒲原郡	25.5	24.0	24.0	26.3	25.5	26.6	27.6	28.3	28.3	29.5	30.3	30.3	30.3	30.3	30.3	30.3	30.3	29.3
三島郡	25.5	24.0	24.0	26.3	25.5	26.6	27.6	28.3	28.3	29.5	30.3	30.3	30.3	30.3	30.3	30.3	30.3	29.3
古志郡	25.5	24.0	24.0	26.3	25.5	26.6	27.6	28.3	28.3	29.5	30.3	30.3	30.3	30.3	30.3	30.3	30.3	29.3
北魚沼郡	25.5	24.0	24.0	26.3	25.5	26.6	27.6	28.3	28.3	29.5	30.3	30.3	30.3	30.3	30.3	30.3	30.3	29.3
南魚沼郡	25.5	24.0	24.0	26.3	25.5	26.6	27.6	28.3	28.3	29.5	30.3	30.3	30.3	30.3	30.3	30.3	30.3	29.3
中魚沼郡	25.5	24.0	24.0	26.3	25.5	26.6	27.6	28.3	28.3	29.5	30.3	30.3	30.3	30.3	30.3	30.3	30.3	29.3
刈羽郡	25.5	24.0	24.0	26.3	25.5	26.6	27.6	28.3	28.3	29.5	30.3	30.3	30.3	30.3	30.3	30.3	30.3	29.3
東頸城郡	25.5	24.0	24.0	26.3	25.5	26.6	27.6	28.3	28.3	29.5	30.3	30.3	30.3	30.3	30.3	30.3	30.3	29.3
中頸城郡	25.5	24.0	24.0	26.3	25.5	26.6	27.6	28.3	28.3	29.5	30.3	30.3	30.3	30.3	30.3	30.3	30.3	29.3
西頸城郡	25.5	24.0	24.0	26.3	25.5	26.6	27.6	28.3	28.3	29.5	30.3	30.3	30.3	30.3	30.3	30.3	30.3	29.3
岩船郡	25.5	24.0	24.0	26.3	25.5	26.6	27.6	28.3	28.3	29.5	30.3	30.3	30.3	30.3	30.3	30.3	30.3	29.3
佐波郡	25.5	24.0	24.0	26.3	25.5	26.6	27.6	28.3	28.3	29.5	30.3	30.3	30.3	30.3	30.3	30.3	30.3	29.3
平均	25.5	24.0	24.0	26.3	25.5	26.6	27.6	28.3	28.3	29.5	30.3	30.3	30.3	30.3	30.3	30.3	30.3	29.3